

I 実践

1. 実践テーマ

人権の意義・内容や重要性について理解し、人権感覚を育む人権教育のあり方

2. 活動目標

- (1) 学校教育全体を通して互いの人権を尊重し合い明るい社会を築いていく中で、自分の大切さとともに他の人の大切さを認められるようにする。
- (2) 様々な人権に関する課題を理解し、正しい認識をもって人権尊重の精神が養えるようにする。

3. 実践事例

(1) あいさつ運動の実施

本校では毎月、朝のあいさつ運動を生活委員会を中心に実施している（写真1）。お互いに登校時のあいさつを進んで行い、よりよい人間関係を築き、思いやりの心を育もうとする運動である。委員会に所属する生徒だけではなく、各学級の生徒も順番に参加し、全校生徒が活動に参加できるように取り組んでいる。保護者やPTA役員の方々にも参加していただいたり、「さわやかマナーアップ運動」として学区内の小学校や高校とも連携したりして、あいさつ運動にさまざまな形で取り組んでいる（写真2）。



写真 1



写真 2

(2) 「ふれあいタイム」の実施

「ふれあいタイム」とは、「生徒同士、生徒と教師と一緒にふれあう時間を過ごそう」というねらいのもと、学級または学年単位で1時間程度の時間で実施している。スポーツを通じたふれあいだけでなく、レクリエーションを実施する場合もある。これらの活動の積み重ねで身近な仲間を知り、お互いを認め合う人間関係づくりにつながっている。

(3) 「日立市ふれあい運動会」への参加

1学年からボランティアを募り、19名の生徒たちが主体的に参加した。参加者の誘導など運営の補助だけではなく、一部の種目に参加するなどして様々な人たちとふれあうことができた。活動のなかでは、相手の立場を理解し、その人の立場になって考え、行動しようとする積極的な姿がみられた。心のこもった生徒の姿勢に対し、参加者から感謝の言葉が寄せられる等、交流が深まった。



(4) 茨城東病院への訪問

30年以上続いている本校の伝統的な活動であり、今年度は、2学年ボランティア委員の有志が夏休みに訪問した。患者の身の回りや院内の清掃を手伝ったり、一緒に歌をうたって患者との交流を図ったりするなどのボランティア活動を行った。様々な病状をもつ患者との交流では、初めは驚きや戸惑いも見られたが、前向きな患者の姿に接し、だんだんと積極的にふれあうことができるようになった。様々な立場の方への接し方を学び、理解を深めることができた。

(5) 生徒指導における実践

1・2学年においてQ-Uテストを年に2回実施している。学校での集団生活の中で、生徒一人一人がどのように考え、どのような心理状態であるのかを把握する手段として用いている。個に応じた支援を行うことで、学級のなかで安心感や所属感をもたせ、生徒相互の好ましい人間関係を築くために活用している。また、教職員間でも共通理解を図ることができ、生徒指導面での効果も期待できる。

また、毎月「学校と家庭の生活アンケート」を実施している。このアンケートは、生徒の学校生活や家庭生活における悩みやいじめ、トラブル等の実態を把握するためのものである。生徒の変化に気が付き対応することができ、問題の未然防止にも役立っている。

(6) 人権感覚と指導力の向上を図るための教職員研修

教職員自らの人権に関する理解と認識を深め、指導力の向上を図るために参加型の校内研修を行った。研修テーマを「ちがい」とし、日常生活のなかで起きている「違い」が問題となる複数の事例について、どこが人権に関わる問題であるのか、どのように判断すべきか、などをグループで考えた。研修を通して、人権についての認識を深めることができた。

(7) 成果

生徒は、さまざまな体験活動を通して、人権に関する理解を深め、人権意識をもつことができた。あいさつ運動を継続して行ったことで、学校全体のあいさつへの意識が高まり、豊かな表情であいさつを自然と行うことができるようになってきた。また、福祉活動へ参加し様々な立場の人たちと関わったことで、相手を思いやり行動する気持ちや共に生きていこうとする福祉への意欲・態度を育むことができた。

学年や学級での活動は、生徒同士、教師と生徒間のより良い人間関係を築く一助となった。さらに生徒指導における実践で、定期的なアンケート調査を行うことで、生徒や学級の実態を把握し、生徒一人一人の悩みや課題に応じた言葉かけや指導を行うことができた。

II 今後の課題

生徒が、取り組みの中だけでなく、日常生活のなかで人権を身近な話題として意識していくことが必要であると感じる。

今後も、教育活動全体を通して機会を捉えて継続的に指導していくことで、生徒の人権意識を高め、実践しようとする態度を育てていきたい。そのために、生徒の豊かな人間性をはぐくみ、人権感覚をやしなうため、多様な体験的な活動の充実を図っていく。また、「人権コーナー」の設置や「人権だより」の発行などを通して、人権に関する情報を発信することで、人権に対する関心を高めるとともに、学校・家庭・地域が連携して人権教育に関わる仕組みをつくっていきたい。